

# ときめき人

Tokimeki bito



唄声で  
心を  
つた

メンバー募集中です  
佐沼津島神社  
Instagram

「女性木遣会」立ち上げメンバーの  
若葉舞さん(左)と藤原彩代さん(右)

「木遣唄」は、人力を集結し重い物を動かす際に掛け声や合図として歌われる作業唄。江戸時代、火消しを兼ねるとび職の人たちにより受け継がれたことから消防組織との関係が深く、現在は民謡や祭礼の唄としても広く各地に伝承されている。

火消し文化の継承を重んじながら、地域の活性化を目指し活動を続ける「奥州陸前登米佐沼津島火消し会」(佐藤充会長)。佐沼津島神社所蔵の、およそ100年前の写真に映し出されていた、祭りでの消防団の様子。それを見た会員たちは、当時の消防団法被を復刻させて身にまとい、木遣唄を披露しようと動き出した。2014年、夏祭りで木遣組を発足した火消し会は、どんと祭や地鎮祭などでも唄を奉納。新たな芸能文化を定着させようとして

いた矢先、新型コロナの影響でイベントなどの中止が相次ぎ、活動は暗雲が漂う状況となった。

この課題解決のため立ち上げたプロジェクトが、全国でも数少ない「女性木遣会」だ。「木遣唄は男性が歌うという昔ながらの概念を変え、男女が共鳴し合える当たり前の環境を作りたい。それが地域の活性化につながるはず」市内在住のミュージシャン、若葉舞さんと藤原彩代さんが中心となり、会員は徐々に増えつつある。「挑戦はスタートラインに立ったばかり。練習を重ね、まずは4月の行事での披露を目指します」と話す2人。

佐藤会長は「木遣唄が、地域に愛される文化として根付き、唄い継いでもらえたら」と、希望の光を見る。

## 編集後記

▼二十歳の集いを取材。会場内は出席者の笑顔であふれかえっていました。私も3年前に「二十歳の主張」を発表したことや、友人と思い出話をしたことを思い返しました。これから夢や目標に進み続ける出席者の皆さんのように、私も気持ち新たに生活していきたいです。(白石)

▼明治村のイベントを取材し、久しぶりに教育資料館に入りました。撮影しながら何気なくのぞいた校長室に校長先生の人形が座っていてドキッとする場面も。とよま観光案内人倶楽部の丁寧なガイドを参加者の脇で聞くことができたので、登米の生い立ちの勉強にもなりました。(佐々木)

▼年々涙もろくなつて、誰かが頑張っている姿や人に感謝を伝える場面を見ただけでほろりとなつちやいます。木遣会の皆さんの「ゆくゆくは子どもたちに防火や文化の大切さを伝えたい」という熱い思いに触れ、目頭が熱くなった今回のときめき人取材でした。(渡邊)



登米市公式ホームページ

(新型コロナウイルス感染症の影響に伴うイベント中止などの情報は市公式ホームページでお知らせしています。) <https://www.city.tomiyagi.jp/>



登米市メール配信サービス

(防犯や防災、イベント・市政に関する情報をメールでお届けします。) <https://mail.cous.jp/tomecity/>

